

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、正門脇の「やまぼうし小庭園」には、

『花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし』

の碑（初代PTA会長 盛合聡の揮毫）がある。



山ぼうし - 友愛・協調・責任 -

2014年8月18日 NO.5-2/3(夏休み特集)

岩手県立宮古工業高等学校 校報(発行者 校長)

■平成26年度 第61回 NHK 杯全国高校放送コンテスト 本校放送委員会制作「朝」入選

【テレビドキュメント部門】
【2014/7/22(火)23(水)24(木)】

全国大会に先立ち、岩手県大会が、6月2・3日の両日、盛岡市内丸の県民会館で開かれ、本校放送委員会が制作した作品（題名「朝」）は、テレビドキュメント部門で第二位に相当する“優秀賞”を受賞し、全国大会への出場権を獲得しました。

全国大会は、7月22日(火)から24日(木)の日程で、国立オリンピック記念青少年総合センター（準決勝まで）及びNHKホール（決勝）を会場に開催されました。テレビドキュメント部門では、各都道府県予選合計558作品のうち、予選を勝ち抜いた188作品が東京で優勝を目指しました。

本校放送委員会が制作した作品「朝」は、惜しくも優勝は逃したものの、ベスト20に相当する栄えある『入選』を果たしました。おめでとうございます。ちなみに各賞の内訳は、優勝が1校、準優勝も1校、優秀賞2校、優良賞6校、そして入選が10校というものでした。

■育てものづくり女子 地元企業(エフビー)での体験実習

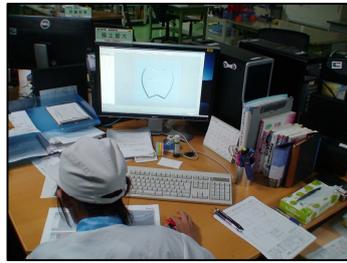
企業と宮古工業高校との連携

【2014/8/04(月)~8/08(金)】

ねらい:女性技術者の育成と地元企業への定着



【図3】研磨加工（6面出し）



【図4】3DCAD（デザイン）



【図5】マシニング加工



【図6】校章(宮工・宮水・山田高)



【図7】宮古工業高校 校章

※今後の学校生活でも基礎・基本をしっかりとし身に付け、進路目標達成に向けて努力します。(研修生一同) ★【報道】岩手日報(8/8(金))

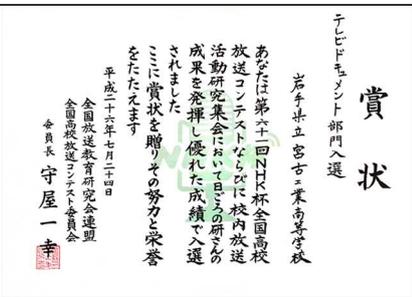
今年度(平成26年度)より、山田町の電子部品製造業エフビー様の絶大なるご支援の下、進路課が窓口となり、女性技術者の育成と地元企業への定着を目標に、女性技術者が主に講師を務める「女子生徒向けの体験実習」を、夏休みの8月4日(月)から8日(金)まで、エフビーを会場に開催しました。

これは、本校の「学校経営計画」にも記載してあるものです。この活動を通して、生徒の「総合生活力」及び「人生設計力」の育成に資することも大きなねらいの一つです。

他校にも声をかけ、宮工(2人)、宮水(2人)、そして山田高(1人)の志ある女子生徒5人が、この体験実習に参加しました。その日程は次の通りです。

- ①4日: 社長寺子屋、研磨加工
- ②5日: 研磨加工(6面出し)
- ※研磨加工は機械加工技能士一級をもつ女性講師Nさんによる指導
- ③6日: 3DCAD
- ④7日: マシニング加工
- ⑤8日: マシニング加工

参加した本校建築設備科3年の女子生徒は、「女性技術者と様々な話ができてとてもよかった。難しかったが、これからは色々なことに挑戦したい」。また、本校電気電子科1年の女子生徒は、「将来の就職を考える上で、いい経験になっている」と貴重な学びの機会を前向きに受け止めていました。講師を務めた、宮古市出身で岩手大工学部を卒業し今春入社した女性社員のKさんは、「女性の感性はものづくりに生きると思う。若い柔軟さやセンスを生かして、ものづくりの過程に興味をもってほしい」とエールを送っていました。本校女子生徒は、予定よりも早く校章を作り上げることができました。ご指導頂きました講師の皆様には深く感謝いたします。そして株式会社エフビーの皆様にも厚く御礼申し上げます。



【図1】賞状(左)と盾(右)



【図2】タイトル画面(左)と列車内での一コマ(右)

昼の放送、そして各種コンテスト等で活躍する放送委員会。委員長のコメントは次の通りです。

▽ 建築設備科3年 山崎 雅登 君 ▽
「NHK杯全国高校放送コンテストを終えて」
NHK杯全国高校放送コンテスト(7月22日~24日)のテレビドキュメント部門で『入選』に選ばれ、三年連続の全国入賞を果たしました。引き続きお昼の校内放送をベースに「毎日放送する」活動を続けてまいります。これからもよろしくお願ひします。

※この作品は、「一日体験入学」の学校紹介ビデオにも使われ、参加者から好評を博しました。

■ 内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官 小泉 進次郎氏 【来校】

【平成26年8月7日(木)14:30~15:30】



【図8】準備(工業基礎実習室)
右奥:盛合家模型、右手前:電気自動車



【図9】お出迎え



【図10】津波模型を使った説明



【図11】津波模型班と記念撮影



【図12】盛合家主屋模型等の説明



【図13】意見交換会
左:宮古市副市長 中央:政務官



【図14】お見送り

★【報道】岩手朝日テレビ(8/7(木))

夏期休業中の8月7日(木)、小泉進次郎政務官が来校し、今年で100回の実演を達成した津波模型の実演会を見学した後、生徒と意見交換を行いました。

小泉氏の津波模型に対する関心は高く、「実際は何メートルの津波?」。また「液体はなぜこの色?」など、より具体的な質問をされていました。これに対し生徒は、「津波の高さは6メートルです」。そして「服についてもシミにならず、肌についても安全なバスクリンを使用しているのでこの色なのです」と政務官に答えていました。

工業基礎実習室では、その型枠が震災時救命ポートとなった「電気自動車」や、被災した国の有形文化財である「盛合家住宅主屋」の1/50スケール模型などを興味深く見学されました。

その後、政務官、名越宮古市副市長、生徒6名らが車座になり意見交換を行いました。「津波模型をやりたくて宮古工業に入学した」。「災害を体験した自分たちが、この活動を通して多くの人たちに防災の大切さを伝えていきたい」という生徒の発言に、政務官は頷きながら大きな感銘を受けている様子でした。

政務官は子供の頃、父親である純一郎氏から一度も「勉強なさい」と言われたことがなかったそうです。そして「日本のことが知りたいなら、日本から出てみなさい」と言われたことがきっかけとなり、3年間のアメリカ留学を実現させたというエピソードを紹介されました。生徒に将来の夢を尋ね、「東京で腕を磨きたい」と答えた生徒には、「東京と言わず世界に出てほしい」と自らの体験に基づき、アドバイスしていました。

政務官は、「震災前から津波模型を使った防災活動をしている点が大変素晴らしい。この活動を全国の工業高校にも伝え、105回と言わず、1000回記念を目指して欲しい」。さらには「みんなの夢が叶うように頑張る大人の思いが、次世代に繋がる尊敬の連鎖を生み出すことを願う。そしてこの活動をしっかりと後輩に引き継いで欲しい」と述べ、生徒たちを激励していました。

■平成26年度前期全国工業高等学校長協会 ジュニアマイスター顕彰 【本校生徒7名がシルバーに認定】

【平成26年8月7日】

【目的】全国の工業系学科に在籍する生徒が目的を持って意欲的に学習に取り組むことを促すには、生徒が身につけた知識・技術・技能を積極的に評価することが重要である。

そこで、本協会では、工業系学科の生徒が職業資格の取得や技術・技能検定の合格を通して、工業に関する知識・技術・技能を習得し、自信と誇りを持って、産業界で活躍できるよう励ますことを目的として、ジュニアマイスター顕彰を実施する。

【認定】取得した資格や合格した検定試験および各種競技・コンクール等での優秀な成績等をジュニアマイスター顕彰に係る区分表(以後、「区分表」)から得点数に換算し、合計した点数により、それぞれ



「ジュニアマイスターシルバー」(30点以上45点未満)、「ジュニアマイスターゴールド」(45点以上)に認定する。但し、「ジュニアマイスターシルバー」の取得者で、「ジュニアマイスターゴールド」を申請する者は、改めて今期区分表で再計算し、45点以上の場合のみ認定する。【平成26年度前期全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度 実施要項】より

平成26年度前期のジュニアマイスター顕彰審査結果の通知があり、本校から7名の生徒がジュニアマイスター・シルバーに認定されました。おめでとうございます。これに満足することなくゴールドを目指し頑張ってください。今後とも、本校生徒がキャリアプランニング能力に磨きをかけ切磋琢磨することで、多くの生徒がシルバー及びゴールドに認定されることを期待します。

■平成25年度技能検定 金賞3名 銀賞3名

授業納め式(H26/7/25)に賞状伝達

平成25年度技能検定合格者のうち、ほぼ満点に近い生徒3名に金賞、そして成績上位の者3名に銀賞が岩手県職業能力開発協会から授与されました。

おめでとうございます。

・3級	普通旋盤作業	金賞	機械科3年飯田 正輝君
・3級	普通旋盤作業	金賞	機械科2年木村 拓君
・3級	建築配管作業	金賞	建築設備科3年柏谷 奨君
・3級	普通旋盤作業	銀賞	機械科3年千鳥 柊己君
・3級	シーケンス制御	銀賞	電気電子科3年中居光太郎君
・3級	建築配管作業	銀賞	建築設備科3年久保田浄土君

受賞者を代表して、機械科3年飯田君の受賞の喜びを掲載します。また、柏谷君、中居君には原稿を作成して頂き感謝します。別の機会に紹介します。

▽金賞を受賞して 機械科3年飯田 正輝君 ▽

私は、今年の2月に普通旋盤作業技能検定を受けて「金賞」を受賞しました。一年生の頃から旋盤はあまり得意ではありませんでした。ですが、この機会を利用して一生懸命繰り返し練習をしました。その結果金賞をとることができました。これからは何事にも一生懸命取り組んでいきたいと思ひます。そして、指導して下さった先生方にはとても感謝しています。